

北海道議会議員（上川地域選挙区）

# みずま健太

## 道政活動報告

水間健太事務所  
〒076-0032 富良野市若松町8番10号  
TEL 0167-33-1778 FAX 050-3488-9580  
MAIL mizumakenta.office@gmail.com

子ども達の  
未来のために

令和6年書写

### 令和6年度一般会計予算3兆215億円が可決

2月21日から3月19日までの日程で、北海道議会令和6年第1回定例会が開かれました。

今定例会では、令和6年度当初予算案一般会計3兆215億円が提案され審議の末、原案の通り可決されました。水間健太は、予算特別委員会委員となり、第3分科会に配属され、農政部、経済部所管事務に関して質疑に立ちました。



### 予算の主な内容

#### ヒグマ対策推進費 6,982万円（拡充）・狩猟者育成確保推進事業 1,600万円（新規）

ヒグマやエゾシカなどの野生鳥獣による被害の防止のため、ヒグマの春期管理捕獲野の強化、人材育成、担い手確保、技術向上のための研修等

#### U I Jターン新規就業支援事業 1億3,952万円（拡充）

移住支援金の給付等による東京圏からのU I Jターンの促進

#### 保育士保育所支援事業 878万円（新規）・出産子育て応援事業 6億2,217万円（新規）

離職した保育士の再就職支援や保育所等への巡回支援等を実施、妊娠期から出産子育てまでの伴走型相談支援と経済的支援

#### 半導体産業に係る複合拠点化事業 1億93万円（拡充）

半導体製造研究人材育成等が一体となった複合拠点の実現に向けた取り組み

#### 海外からの未来産業DXGX投資促進事業 3,183万円（新規）

未来産業やDX、GX投資を呼び込むため欧米でプロモーション実施

#### 飼料生産基盤フル活用事業 483万円（新規）

稲WC Sによる自給飼料の生産拡大や耕畜連携の取り組みを推進

#### 未来を創る北海道フード&アグリ発信事業 2,091万円（拡充）

食料安全保障に貢献する本道農業の理解促進や情報発信

#### アドベンチャーラベル推進事業 1億2,543万円（拡充）

アドベンチャーラベルに取り組む地域への支援や受入体制の整備

#### 観光人材発掘事業 4,081万円（新規）

人手不足が著しい宿泊業において新規学卒者を中心とした人材確保を推進

令和6年度予算のその他の概要の詳細はこちらからご覧いただけます



※提案された予算の一部を抜粋して掲載しています。

## 農政部および経済部審査にて質問を行いました



### 農政部審査での質問（抜粋）

#### 農業分野における環境負荷低減にむけた取組について

国はみどりの食料システム戦略において、2030年までに持続可能な食料・農林業水産業を行う者へ施策を集中する、いわゆる政策手法のグリーン化に取り組むこととしており、道の今後の取組について伺いました。

#### 補助事業へのクロスコンプライアンスの導入と農家等の負担軽減の対応は

農林水産省はすべての補助事業に対して、最低限行うべき環境負荷低減の取組を実践する「クロスコンプライアンス」を令和6年度から試行し、令和9年度を目標に本格導入することとしたことから、具体的な取り組みと農家等の負担軽減に向けてどのように対応するのか質しました。

農政部からは、適正な施肥や防除、エネルギーの節減、廃棄物の発生抑制等の取り組みを補助申請時にチェックシートでの提出、事業実施後の報告が義務化される説明があり、令和6年度は事業申請時の提出のみで試行、令和7年度からは事業報告時の提出などを試行、令和9年度を目標に本格実施されるとの答弁がありました。

農家等の負担軽減の対応については、解説書の作成、様式の簡素化、類似事業における共通化による事務等の負担軽減と関係者の方々からの相談に丁寧に対応し生産現場における負担の軽減に努める旨の答弁がありました。

#### 労働力の確保について

##### 労働力の確保について

農業における雇用労働力不足は深刻な問題であり道の対応を質しました。

農政部からは、農業者側の職場環境や雇用条件などの整備と働きたい方々が必要とする情報提供が重要であり、働きやすい職場環境づくりセミナーの開催やアルバイトアプリでの情報発信、農福連携の人材育成の研修会開催、道のホームページに「農業の人材確保におけるお助け情報サイト」を開設し労働力の確保に努める旨の答弁がありました。

##### 法人などの育成について

道内の農地所有適格法人やコントラクターの現状と今後の対応について質問しました。

農地適格法人数は、R2は3,716、R3は3,830、R4は3,889と増加、コントラクター数はR1は335、R2は329、R3は333と横ばいで推移し、オペレーター不足や機会の老朽化などが課題となっている。財務と税務に関するセミナーや相談会オペレーター確保の研修会を開催し、スマート農業の円滑な導入をすすめ法人やコントラクターの育成に努める旨の答弁がありました。

#### （農政部へのその他の質問）

##### ①農業分野における環境負荷低減に向けた取り組みについて

・農業分野におけるJクレジットの取組および普及 ・みどり認定 ・温室効果ガスの排出削減率の見える化 ・有機農業の推進

##### ②農業における温暖化への対応について

・昨年の気象と農業への影響 ・てん菜への影響 ・猛暑への対応 ・今年の営農に向けた検討 ・品種開発 ・新顔作物

##### ③多様な米生産について

・道産酒米、日本酒の振興 ・米粉の普及 ・米の輸出拡大

##### ④酪農振興について

・酪農情勢 ・自給飼料の生産状況 ・自給飼料生産支援緊急酪農対策事業の実施状況 ・草地整備の推進 ・耕畜連携の課題および推進

##### ⑤新規就農、労働力の確保について

・新規就農者の確保に向けた課題 ・関係機関の役割

##### ⑥農村地域の防災減災対策について

・農地、農業水利施設の被害状況 ・被災した農地等の復旧および対応 ・農地及び農業水利施設の防災等の整備

### 経済部審査での質問（抜粋）

#### ワイン産地の形成について

##### ワイン産地の形成に向けた今後の取組について

道では、人材育成、相談対応や産地形成に向けた取組を進めているが、病気や害虫など気候変動に起因すると思われる新たな課題も発生しているが今後ワイン産地の形成に向けどのように取り組んで行くのか質しました。

温暖化によりぶどう栽培が可能な地域や品種が拡大する一方でぶどう品質の変化や病害虫など新たな課題も生じているがこうした課題に対応していくため、新年度は民間からの寄附を活用し、気候変動に対応した栽培や醸造に関する研究を実施し、その成果を道内ワイナリーと共有していく旨の答弁がありました。

#### （経済部へのその他の質問）

##### ①ワイン産地の形成について

・北海道ワインアカデミーの実績 ・北海道ワインプラットフォームの取組 ・道産ワインのプロモーション

##### ②アドベンチャートラベルについて

・アドベンチャートラベルガイドの英語力強化 ・バックカントリースキー事故 ・プラットフォーム

・アドベンチャートラベルに取り組む地域への支援 ・関係機関の連携 ・観光の高付加価値化